

## 提言

「総合知」による未来社会の実現に向けた専門家・非  
専門家の壁を越えた科学技術・学術活動の促進

一般社団法人 日本女性科学者の会

令和4年3月

## 提言

### 「総合知」による未来社会の実現に向けた専門家・非専門家の壁を越えた科学技術・学術活動の促進

- 1 総合科学技術・イノベーション会議における「総合知」の検討、推進方策の決定プロセスにおいて、専門家の属する「矩」を越えた参加とともに、ダイバーシティ推進の観点から、女性科学者と女性行政職のより一層の積極的な参加を求めます。
- 2 受益者の国民の多くは非専門家であり、「総合知」による課題解決を通じて目指すべき未来像とされる Society5.0 の経済社会・生活への影響を大きく受けることから、「国民との対話」も重視していただくことを望みます。
- 3 具体的な推進方策の中に、①現存の競争的研究費、運営費交付金、補助金等の研究資金制度の吟味に基づく、「総合知」に適した審査・配分・評価の方法・体制の構築、②日本学術会議の公開シンポジウムの活用等により、専門家-非専門家がディシプリンやローカルルールを越えて、敷居の高低に非合理に忖度することなく語り合える共創の場・対話のプラットフォームづくりなども取り入れていただけますことを含め、提言いたします。

## 背景

令和3年3月26日に閣議決定された「第6期科学技術・イノベーション基本計画」において、自然科学のみならず、人文・社会科学も含めた多様な「知」の創造と、「総合知」による現存の社会全体の再設計、さらには、これらを担う人材育成の重要性が指摘されています。科学技術・イノベーション政策上の重要課題である Society5.0 や国民一人ひとりの「多様な幸せ」(well-being) の実現や社会課題の解決等に資する「総合知」については、現在、総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI) において、「科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合」を中心に、その基本的考え方や戦略的推進方策等を検討中であり、2021年度中に取りまとめが行われる予定です。

「専門知」を包含し、個々の領域の壁を越えて融合・統合・俯瞰する「総合知」には、ギリシャ哲学の以前から古代の人々により思索や論争が続けられてきた「汝自身を知れ」「幸福とは何か」という深遠なテーマと切り離すことはできない、重要な「学術的問い」も含まれています。

「人間存在」について深く考え、可視化・概念化することはAI (人工知能)、DX (デジタル・トランスフォーメーション)、ロボティクス等が発達し、人間を凌駕する知的存在を間近に見ることが可能になった21世紀、Society5.0時代における重要な哲学的・倫理的・科学的課題と言えます。また、2020年初頭より世界に蔓延したコロナウイルス・パンデミックの影響で人々が経験した表情の見えにくいマスクの着用、物理的距離を置くソーシャルディスタンス、サイバー空間でビジネス対話するテレワークなどは、人々が他者を感じ理解するための五感の一部(視覚、嗅覚、触覚)が日常的に制限された初めての経験となります。このような新しい時代背景において、人間の身体性や心の意味、また、健康・不健康、幸・不幸、自由・管理、善悪、良否の境界も含めた「いのちある人間」に関わる重要課題は、これまでの還元主義的・分析的手法では解明できないことは自明です。このため、物理学および化学、生命科学、地球環境科学、数理情報科学、人間科学(科学教育含む)及び人文社会科学など多くの分野の英知を結集した「総合知」により、「学術的問い」を明らかにし、可視化・概念化することが重要です。さらに、専門分野を越えて「真理」の解明や課題解決を図ることは、科学者の「責務」であるとも考えられます。

以上

### (参考文献)

- 1 閣議決定「第6期科学技術・イノベーション基本計画」、令和3(2021)年3月26日  
<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6honbun.pdf>
- 2 内閣府総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会「総合知を戦略的に推進する方策(総合知戦略)の検討について」、令和3(2021)年11月11日  
<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20211111/siryol.pdf>
- 3 日本学術会議公開シンポジウム「科学的知見の創出に資する可視化(6)「総合知～幸福論からみた身心・細胞力、その真理の可視化～」」、令和3(2021)年11月30日  
<https://www.scj.go.jp/ja/event/2021/316-s-1130.html>
- 4 一般社団法人日本女性科学者の会、「提言 人生100年時代、女性も男性も十分に能力発揮できる研究環境の実現」、令和3(2021)年10月  
[http://www.sjws.info/Proposal/doc/teigen\\_211008.pdf](http://www.sjws.info/Proposal/doc/teigen_211008.pdf)